



DOON UNIVERSITY, DEHRADUN

End Semester Examination, December 2017

School of Languages

M.A. Integrated Japanese (7th semester)

Course: SLJ 404 Reading Japanese Literary texts I

Time Allowed: 3 Hours

Maximum Marks: 50

Note: Attempt All Questions from Section A, B and C.

Section A: 英語で翻訳しなさい。

点：3 * 5 = 15

Q. 1 この三年間、自分は山の手の郊外に、のかけになっている書齋で、平静的な読書にふけていたが、それでもなお、月に二、三度は、あの大川の水をながめにゆくことを忘れなかった。動くともなく動き、流るともなく流れる大川の水の色は、静寂な書齋の空気が休みなく与えると緊張とに、せつないほどあわただしく、動いている自分の心をも、ちょうど、長旅に出た巡礼が、ようやくまた故郷の土を踏んだ時のような、さびしい、自由な、なつかしさに、とかしてくれる。大川の水があって、はじめて自分はふたたび、純なる本来の感情に生きることができるのである。

Q. 2 百姓たちは驚いた。そこで気の早い連中が機体によじ登って操縦席から機関室を探してみたがやはりいない。「無電装置かも知れねえや」しかし、そうでもないらしい。まもなく駐在所の巡査が、村の有志が来て頭をひねったがどうしても判らない。なにしろ人間の乗っていない飛行機が、操縦者でもあって操縦しているかのようにと着陸したことであるから、人びとはまるでにでもつままれたように不思議がっていた。そこへ飛行服をた一人の将校がパラシュートをつたまま駆けつけて来た。そして、飛行機を見ると、「おう」と云って機体に抱きついた。それは航空兵少佐の某君であった。某君は部下の軍曹とともに飛行中、機体に故障が生じたので、それぞれパラシュートで難を避けたが、今来て見るとたちの乗っていた飛行機がすこしの損傷もななく着陸していたので、まるで愛児にでもった時のように嬉しかった。某君が夢中になって喜んでいるところへ、これもパラシュートを背負った同乗の軍曹が駆けつけて来た。

Q. 3 おれの力はこの国さえもこわしてしまえる。この獵師なんぞはなんでもない。いまおれがいきをひとつすれば毒にあたってすぐ死んでしまう。けれども私はさっき、もうわるいことをしないと誓ったしこの獵師をころし

たところで本当にかあいそうだ。もはやこのからだはなげすてて、こらえてこらえてやろう。」

すっかり覚悟がきましたので目をつぶって痛いのをじっとこらえ、またその人を毒にあてないようにいきをこらして一心に皮をはがれながらくやしいというところさえ起しませんでした。

獵師はまもなく皮をはいで行ってしまいました。

竜はいまは皮のない赤い肉ばかりで地によこたわりました。

Section B 1000字以内に答えなさい。

点：4 5 20

Q.4夜だかとはどんな鳥でしたか。

Q.5 いまこのからだをたくさんの虫にやるのはまことの道のためだ。いま肉をこの虫らにくれておけばやがてはまことの道をもこの虫らに教えることができる。」この文章の意味を説明しなさい。

Q.6 自分が好きな作品の批判的な分析をしなさい。

Q.7 宮沢賢治に書かれた「よだかのほし」のまとめを書きなさい。

Section C

8.6 Write a short note on *any three*. (1000 words)

点：3*5=15

- Freud and Psychoanalysis
- From structuralism to post structuralism
- Medieval and Renaissance
- Subaltern society and literature
- Modernity, modernism and modernization